

～世界文化遺産の観光振興と景観保全の両立を目指して～

令和5年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージ I】採択課題

課題名：「世界遺産「平泉—仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群—」の景観保全と観光振興の両立に向けた実証研究」

研究代表者：総合政策学部 近藤信一

課題提案者：岩手県生涯学習文化財課

研究メンバー：去石夏菜（研究協力者、大学院総合政策研究科・近藤信一研究室院生）

キーワード：世界文化遺産、観光振興、景観保全

▼研究の概要（背景・目標）

本研究では、研究目的を日本国内の世界文化遺産において景観保全と観光振興を両立し持続可能な世界文化遺産運営を行っていくための取り組みの効果を学術的な見地から分析・考察し、景観保全と観光振興の両立に向けたモデリングをすることを目的とした。

本研究の結果として、世界文化遺産の景観保全と観光振興の両立を果たすために取り組むべき内容について確認し、それら取り組みが保全と活用の双方で効果的に作用しあい便益を生んでいることを明らかにした。また、追加調査を実施したことで、観光客の過剰誘引や観光客減少など望ましくない側面に対し、増加した観光客数を抑制する取り組みをするのではなく、観光公害化しないような施策を打つことの重要性や、観光客減少に歯止めをかけるために取り組むべき絶対条件を明らかにした。

▼研究の内容（方法・経過）

本研究では、研究方法として実証研究を採用した。調査方法として、インタビュー調査(対面)と世界文化遺産の現地視察を実施する。現地視察は、インタビュー調査で得た内容と現地視察によって確認できる内容に相違がないか確認することを目的とする。調査母集団の抽出にあたり、①ミシュラン・グリーンガイド・ジャパン(第6版)にて星1つ以上の評価を獲得していること、②遺産登録の前年と2019年(新型コロナウイルス蔓延前)のデータを比較して観光客数が増加していることを条件とし、景観保全と観光振興の両立を果たす遺産として6つ遺産を抽出した。研究概念図の作成に際し、研究目的を踏まえた3つの論理的なフレームワークを選定し、質問項目を設けた。加えて、6つの世界文化遺産の景観保全と観光振興について満遍なく調査するために、①府県レベルの行政組織、②市町村レベルの行政組織、③民間保全組織、④民間観光関係組織、の4組織を対象に対面でのインタビュー調査と現地視察を実施した。

▼研究の成果（結論・考察）

本研究の結果として、世界文化遺産の景観保全と観光振興の両立を果たすために取り組むべき内容について確認し、それら取り組みが保全と活用の双方で効果的に作用しあい便益を生んでいることを明らかにした。また、追加調査を実施したことで、観光客の過剰誘引や観光客減少など望ましくない側面に対し、増加した観光客数を抑制する取り組みをするのではなく、観光公害化しないような施策を打つことの重要性や、観光客減少に歯止めをかけるために取り組むべき絶対条件を明らかにした。（図表参照）

▼おわりに（まとめ）

本研究の目的である、日本の世界文化遺産における景観保全と観光振興の両立に関する取り組みのあり方について明らかにし、どのような考え方で効果的な施策を打っているか等、持続可能な世界文化遺産の運営へ向けた取り組みについては考察部分で記述した。また、追加調査を実施することで、観光客を過剰誘引してしまうことによる観光公害被害の緩和対策として観光客への金銭的な協力を仰ぐことの重要性を見出すことができた。以上のことから、本研究の目的を達成することができたと考えられる。

図表「保全と活用の両立のための双方向好循環モデル(改)」

